

# 和光の緑と湧き水だより 会報 Verda131号

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 会報発行 2013年9月号 代表理事 高橋絹世 (462-9912)

身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

25年	全体会	新倉ふれあいの森	白子・大坂ふれあいの森(地域の会と協力して)	樹林公園、白子川
9月	新倉ふれあいの森ガイドマップ編集会議	13日(定期日変更) 保全	5日 モニ 1000 調査 19日 大坂ふれあいの森	観察会 準備打ち合わせ
10月	12日市民活動見本市参加 樹林公園での昆虫さがし・森あそび	19日 竹林、貴重種保全	3日 モニ 1000 調査 17日 大坂ふれあいの森	12日 午前：ドングリの森探検 午後：昆虫さがし

## 初任者研修会での高橋勝緒さんの講義報告

### 郷土を知る～白子の湧き水～<和光の身近な自然を知り、守り、活かす>

平成25年度教育委員会による初任者教師研修会が8月19日に開催され、大久保昭男教育長による「専門職である教員として期待すること」と題する講話の後に、「郷土を知る～白子の湧き水～」と題して高橋勝緒さんの講義が行われました。この講義は、新任教師が和光市の郷土としての特徴を知り、教育に生かしてもらおうと企画されたものです。16名の若い先生方は大変熱心に講義を聞いてくださり、大きな拍手を受けました。



30年前の和光市駅前と現在



都市部の自然の残る白子湧水地

和光市の地理的特徴を知ってもらい、都市部にありながら湧き水がわき、その周辺には貴重な植物が生育し、小中学生たちが触れることのできる環境が残っていること、さらにその環境保全を行い、活かす活動に繋げ、将来に残していこうという講演でした。

「身近な自然からどのようなことを学ぶことができるか」という視点で話が進められました。

更に、高橋さんの東海大学教育開発研究所で行った「児童生徒が自ら考える理科授業」理科教育について、先生から生徒への一方的に知識を伝達する授業に代わり、生徒自身が体験(実験など)を基に科学的知識を構築する授業へと転換する試みについての講義も付け加えられました。



身近な自然を教材にして学ぶ



武蔵野台地の湧き水の仕組み



校庭で自然観察・体験学習

## 夏休み環境ボランティア：樹林公園の看板やパネル補修作業

社会福祉協議会と連携し、夏休み中の体験学習として、7月24、25、30日の3日間、樹林公園に設置された“森の木探検案内板”、“樹木のクイズ板”の補修、清掃に中学生がボランティアとして参加しました。渡辺康三さん、坂井和子さんが中心となり、樹林公園を案内、準備した道具を使って看板の補修や清掃を行いました。猛暑での作業に注意しながら進められ、無事終了。今後も継続に期待しましょう。

